



「米沢興議館高校予餞会」



一月十二日に予餞会が行われました。予餞会とは卒業に先立って行われる送別会のことです。センター試験も終わり二次試験へ向かって、さらなる努力を重ねている先輩方に、何か励みになるようなことをしたいという思いから企画されました。具体的な内容としては有志による激励、応援団のエンターテインメント、吹奏楽研究クラブによる演奏、三年生の思い出の写真をまとめたムービーの放映、転任された先生方からの応援VTR、各部活動ごとに応援

メッセージを書いた二次試験までの日めくりカレンダーの贈呈が行われました。十数年前までは興議館でも予餞会が毎年恒例の行事として行われていました。しかし、時がたつにつれ、いつのまにかそれは姿を消し、忘れ去られてしまいました。その予餞会が今復活し、興議館の伝統として再び動き始めようとしています。来年度、再来年度とこの伝統は廃れずに受け継がれていくことを



感謝と惜別そして激励の舞

二年 高橋 泰徳（米沢一中出身）

初めて予餞会の有志激励を募る声がかかった時、僕はあまり乗り気ではありませんでした。しかし、友達から「一緒にダンスをやらないか」と話を持ちかけられました。やはり三年生の皆さんには二年間もお世話になった事だし、恩返しとして何かの形で励ます事ができたらいいなと思い、その話に乗りました。こうして僕を含め三人が集まって、三年生が興議館などで踊っていたダンスをやることになりました。

そして練習を始めましたが、予餞会まであと二週間足らずしかなく、昼休みなどの空いた時間を見つけての練習しかできませんでした。個人的にインターネットの動画サイトで練習用動画を探し、練習した日もありました。三年生に喜んでもらえるように懸命の練習を積み重ね、本番を迎えました。本番では練習の成果も出て、場を盛り上げることが出来、少しでも三年生を励ますことができたのではないかと思います。

米沢興議館だより

Yonezawa Kojokan High School

第11号 平成20年3月31日発行

山形県立 米沢興議館高等学校

〒992-1443
山形県米沢市大字笹野1101
TEL 0238-38-4741
FAX 0238-38-2531



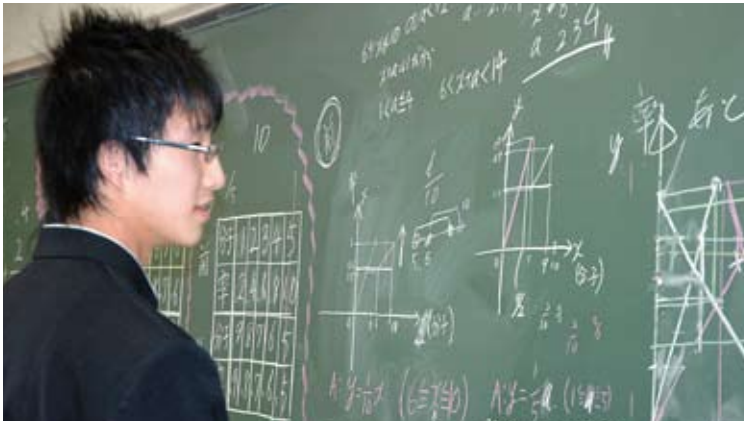
理数科

課題研究発表会

●理数科独自の体験的学習活動

三月六日、理数科課題研究発表会を県内理数科設置校や置賜地区内の高校・中学校の先生方と中学生、本校保護者から五十名を超える参加者を得て、盛大に開催しました。学校設定教科「生涯科学」における課題研究・課題研究基礎講座といった理数科独自の体験的

な学習活動や研究成果を、動画や実演を交えて発表しました。最優秀を獲得した二年物理班では「二足歩行ロボット」を自作し、歩くことができるまでの苦労や工夫したことをユーモアを交えながらわかりやすく発表しました。「ものづくり」の醍醐味を感じさせる素晴らしい発表でした。



二足歩行ロボットの研究

二年 井上 拓也

(米沢三中出身)

私達理数科は、物理・化学・生物・数学・地学の分野において、興味のあることを一年通して研究することが出来ます。本校ではこれを「課題研究」と呼んでいます。

今年度の課題研究で、私のグループは物理分野である「ロボット」の研究を行いました。この研究は、前年度でも行われていたものでしたが、例年では規格のそろっているブロックを利用すること、私達は個々の部品から手作りのものを使用しました。

これらの活動は「研究」と言うよりも「創作」に近いかもしれないため、他の研究班よりも、活動時間が長いかかっています。しかし、研究発表の直前まで作業が続きました。しかし、そのおかげで十分な試行や考察を得られ、高校最後の課題研究で満足のいく成果を挙げることができました。



インターハイに出場して

二年 スキー部 八島 加奈

(飯豊中出身)

「インターハイ出場」これがスキー部の目標であり、私の最大の目標でした。スキーは冬季スポーツであるため、二年生で引退してはなりません。だからこの冬は本当に「勝負の冬」だったと思います。冬休み少し前から本格的に北海道へ行って合宿を組みました。他校よりずっと練習できる期間が少なく、自分の調子を取り戻せるかどうかという状況で大会本番を迎えました。納得のいく滑りではなかったのですが、なんとかインターハイ出場を手に入れることができました。

二月六日、苗場スキー場で行われたインターハイでは、今まで練習してきたことを発揮し、悔いの残らない滑りができたと思います。この二年間は本当に沢山の方々に支えられたと思います。顧問の眞琴先生、星先生、引率してくださった板垣先生、家族、友達、本当にありがとうございました。高校スキーはこれで終わりますが、次の目標に向かって頑張ります。





思い起こせば三年前、私たちは夢と希望に満ちあふれた。本校の門をくぐりました。学業と部活動を両立させることは、容易なことではありませんでした。新しい出会い、個性豊かな仲間たちと切磋琢磨し、信頼できる先生方に励まされ、自己の成長に努めて参りました。中でも、私にとって印象深い思い出は夏の甲子園予選です。雨の中、たくさんの人たちから応援を受け、最高の舞台で最高の相手と戦え、全力を尽くし、悔いのない試合をすることができました。思えば、この試合の直前に私は選手としてなかなか結果を出せず、苦しんでいました。自分の不甲斐なさに悔し涙を流し、がむしやになつて、バットを振り続けたこともありました。しかし、こうして夢を

門出の言葉

卒業生代表 佐藤 裕人
(米沢三中出身)

諦めずに、真摯な気持ちで野球と向き合い続けてきたことが、今になって見えない力となり、私を支えてくれていきます。また、充実した高校生活の中で得た、絆や感謝の気持ちはこれから社会に踏み出す上での大きな力になると信じています。



第60回卒業証書授与式

春を告げる風が吹く 今日の日を忘れない



興譲館精神を胸に

卒業生保護者 森 千春



興譲館高校では三年間お世話になりました。誠にありがとうございました。

子供達は先生方の献身的な愛情を胸に刻み、各人が選んだ道に向かって飛び立って行きました。これからの人生において興譲館の伝統である「和の精神」を抱き、各分野で活躍してくれるものと期待しております。

多感で悩み多い青春時代を興譲館で「文武両道」の教えの下、勉学に部活動にと励み、

友と友情を深め、あるいは先生と人生を語り合うことが出来た子供達は、大変幸せであったと思います。高校三年間で子供達は将来へ飛躍するための大切な心身両面の糧を得たものと信じます。

さて新たに入学されました新入生の皆さん、保護者の皆様おめでとうございます。皆さんは藩校以来の長い歴史と輝かしい伝統を誇る名門興譲館高校で、勉学に部活動に思う存分に力を発揮して下さい。

多くの先輩がそうであったように、これらの高校生活は皆さんの人生で一番成長することの出来る時期です。ぜひ自分を伸ばして下さい。

最後に興譲館高校のご発展と先生方、生徒の皆さんのご健勝をお祈り申し上げます。

山形大学医学部医学科

渡部 亮 (シス部米沢中出身)

高校生にとって受験という時期は苦しい、辛いことも多いです。しかし、その中でも諦めずにやり抜くことで、様々な意味で自分を大きく成長させることができる時期でもあると思います。人生という長い尺度の中で考えれば、勉強はもちろん、部活動も、時事問題を考えることも、文学作品を読むことも、何気ない日常での友達とのやり取りも、すべては自分という人間を作るのに必要な大切な事だと、私は興譲館で学びました。

東北大学法学部

五十嵐 美穂 (美濃郡川西中出身)

部活で身につけた体力・精神力が受験においてのどんな苦しい状況にも効く。自分は部活を毎日全力で頑張った。そこで得た力は受験勉強から逃げ出さなかったこと、本番で緊張しなかったことへとつながった。だから現役中は本気で部活をして勉強との両立に奮起して自分を向上させ、引退後はその部活で得た力を受験勉強に注いではしい。



合格者から後輩達へのメッセージ

The message to you



宇都宮大学工学部応用化学科

佐藤 博貴 (バレー部 梨郷中出身)

皆さんには部活を最後まで頑張つて欲しいと思っています。部活を通して得た仲間や達成感は、高校生活の中における大きな財産となるからです。確かに勉強との両立は難しいかもしれませんが、そこで弱音をほかず、卒業時に両方ともやり切ることができたと胸を張れるように頑張ってください。

宮城教育大学教育学部中等教育教員養成課程

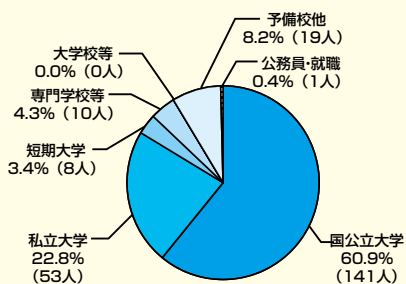
川村 麻耶 (陸上部 高田二中出身)

興譲館の先生方は精鋭揃いですので、安心して沢山の事を教わってください。そして同じ高い志を持つ仲間達と切磋琢磨することで、自分を大きく成長させてください。受験期がどんなに辛くとも、支えてくれる先生方や仲間がいると乗り越えることができます。一年後、三年後に必ずわかる日が来るので、今は周りの人達を大切にしてください。



合格体験発表会

19年度卒業生進路先



主な大学の合格人数

東北大	23	お茶の水女子大	2
山形大	27	横浜国立大	6
山形保健医療大	3	新潟大	17
筑波大	6	自治医大	1
宇都宮大	6	慶応大	4
埼玉大	12	津田塾大	2
千葉大	5	早稲田大	6



センター試験会場に向かう受験生